

JCHO うつのみや病院
第 11 回地域医療連絡協議会議事録

(日 時) 令和 4 年 12 月 8 日 (木) 14 : 00 ~ 15 : 00

(場 所) JCHO うつのみや病院 2 階大会議室

(出席者) 15 名

(議 題) 病院概況

コロナ診療の現況

デマンドタクシー

その他・皆様からのご意見、ご要望

【概要】

(司会：栗原副施設長の進行)

1. 八木澤院長あいさつ

委員の皆様には日頃のご支援に感謝申し上げます。年末のご多忙な時期に地域医療連絡協議会に参加いただき、ありがとうございます。

JCHO 法に則り、今年も昨年と同じく地域医療連絡協議会を開催したいと思います。本日は、病院の現況、新型コロナウイルス感染症の現状、デマンドタクシーについて説明いたしたいと存じます。

お手元に当院の 2021 年度の年報をご用意いたしましたので、お時間のある時に見て頂ければ幸いです。本日は一時間宜しくお願い致します。

2. 新委員紹介

(これ以降設置規定第 7 条により森澤委員長が議長として議事進行を行う)

3. 議題

●事務局青山：病院概況の説明（別紙スライド資料により説明）

・別紙資料参照

○大和田副委員長：令和 3 年度の経常収支が際立って高いのは何が原因か。

●事務局青山：コロナ病床を確保したことによる空床補償の補助金が原因。

●羽田副看護部長：コロナ診療の現況の説明（別紙スライド資料により説明）

・別紙資料参照

○羽 金 委 員：コロナ陽性の要介護患者の受け入れ先が問題となっている。JCHO うつのみや病院は宇都宮市内で唯一、介護老人保健施設を併設している。そ

のため、両者が押し付けあうのではなく、協同して要介護、或いは認知症の急性期患者に対処することを検討してほしい。

●**冨田副看護部長**：介護老人保健施設と病院間での職員の移動は難しいものがある。介護老人保健施設の職員の人数も決まっているので、病院で患者に対応できるほど余裕があるわけではない。コロナ病棟では病床数が18床と少ないため、患者一人当たりの看護師の数は多い。そのため、介護士に頼らずともケアは丁寧に行われている。

●**古瀬事務長補佐**：デマンドタクシーの説明（別紙資料により説明）

・別紙資料参照

○**稲葉委員**：デマンドタクシーは高齢者に優しい乗り物ではあるが、自治会が他に対処する問題を多く抱えているため、そこまで手が回らない状態にある。そのため、現状、南高砂町はデマンドタクシーの利用エリアに入っていない。いずれは入る予定だ。

デマンドタクシーは必ずしも良いことばかりではない。JCHO うつのみや病院に来る際には月に50人利用者がいるが、帰る際には10人ほどしか利用者がいない。乗車の1時間前に予約を入れる制度なので、病院に行く際には良いが、帰る際にはデマンドタクシーを長時間待つことになる。また、運転手は高齢者に慣れているとは言え、介護士ではないため、介護が必要な人は利用できない。デマンドタクシーは自治医科大学附属病院に行けないため、利用できるようにしてほしいという希望が出ている。しかし、デマンドタクシーは医療タクシーではないため、遠方にある自治医科大学附属病院に向かうのは難しい。

●**古瀬事務長補佐**：当院でも自治体に働きかける。

○**松田委員**：老人クラブの屋外イベントへの看護師の派遣に大変感謝している。今年の大きな屋外イベントは無事全て終わった。現在、老人クラブの大きな課題になっているのが、定年延長、リーダーの不足等による組織人員の減少だ。平成30年から現在までの5年間で宇都宮市も雀宮地区も加入者が減少している。来月から勧誘促進運動を開始する。

○**森澤委員長**：コロナ流行第8波で現在問題となっているのが救急患者の受け入れである。呼吸困難、介護施設といった単語がでると、受け入れを断られることが多い。現在JCHO うつのみや病院の救急外来で工夫していることがあれば教えてほしい。

●**冨田副看護部長**：できるだけ受け入れるようにしているが、地域包括ケア病棟をコロナ病床

にしている関係上、急性期病床が空かない状態となっているため、受け入れ要請に応えられていないのが現状。コロナの治療が終わった患者を早めに退院させるようにし、特に二次救急の日には空床を確保できるようにする等の努力はしている。

- 森澤委員長 あ：救急患者の受け入れ要請はまず受けて頂きたい。コロナの患者で重症であれば、三次救急で受け入れる。現在、二次救急レベルの患者が三次救急に来るので、三次救急の患者が来た時の受け入れに苦労する、というのが続いている。そのため、二次救急の要請は積極的に受けて頂きたい。要請を受けて対応できない場合は、県の調整本部に連絡して頂ければ三次救急病院で対応する。
- 八木澤院長：受け入れ要請にはできるだけ応えるようにしているが、病床数に制約があり、入院となった際の病床のマネジメントに難しいところがあるため、救急患者を受け入れられていないのが現状だ。また、当院の救急外来には診察室が3つあるが、発熱した患者が来た際の動線の工夫が今後さらに患者が増えた際に必要になると思われる。できるだけ診察をしていけるようにしていく。
- 森澤委員長：三次救急は迷わずに受け入れるが、二次救急の場合は様々な背景があるため、受け入れる、受け入れないといった選択が生じる。結果として二次救急の患者が三次救急に来ているという現状になっているため、その点に配慮して頂きたいと聞いた次第だ。

- 稲葉委員：「新しいずみ」を自治会の全世帯に配るのではなく、自治会の班の中での回覧にするというのはどうだろうか。
- 古瀬事務長補佐：配布方法、枚数共に相談させて頂きたい。

- 八木澤院長：年に1回地域医療連絡協議会を開催しているが、より頻繁に皆様のご意見を聞きたいので今後は年に2、3回開催したい。対面で、年に2、3回集まるのは難しいものがあると考えてるので、年1回の対面以外は書面開催としたい。先ほど「新しいずみ」の回覧の話があったが、それと同様に配布して書面で意見を伺うという形で行いたいと思うが如何だろうか。
- 稲葉委員：病院側の手間もあると思うので、こちらとしてはそれで結構だと思う。

以上 総務企画課
令和4年12月作成